

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表										R6
-------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

法人名	有限会社 在宅ナースの会	代表者	小菅 勉	法人・事業所の特徴	京浜急行六浦駅から徒歩5分、近隣には公園が複数ある閑静な住宅街にあります。 明るい日差しが差し込むデイルームにて「いつもふくふくとした笑顔と笑い声がたえない居心地の良い空間と場所づくり」という理念を目指し業務上での実践を心がけています。通い・宿泊・訪問のサービスを柔軟に組み合わせ 地域の方々の在宅生活の支援をさせていただいています。地域のボランティアさんの協力を受け笑顔の絶えない家庭的な雰囲気です。また調理専門のスタッフによる旬の食材を使った彩り鮮やかな食事や季節行事
事業所名	小規模多機能型ハウス ふくふく六浦	管理者	村野 延枝		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	3人	人	9人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・事業所評価について早めに取り組み、スタッフの理解度を高めていく ・ZOOMでの研修参加を呼びかけ、参加者数の増加を目指す	・事業所評価への取り組み開始が遅れてしまったが、職員の早い対応があり、まとめ上げることができた ・研修参加率は上がってきている	職員の取り組み意識を向上して活動の充実を図ってほしい	・次年も早めに取り掛かり職員の意識・認識をたかめていく
B. 事業所のしつらえ・環境	・個人情報漏洩につながらないように掲示物の内容に注意を払い、日頃の活動を掲示していく ・開設から10年を過ぎているため建物内外の劣化状態を確認し、安全な環境整備に努める	・情報漏洩に注意しながら日頃の活動が伝わるような写真撮影を心掛けた ・建物内外の危険箇所については即時対応に当たる事が出来た	掲示板にて活動の様子を知ることができている 今後も写真や作品を通してふくふくの様子を見せてもらいたい	・掲載する写真の撮り方に細心の注意を払い、ふくふくの活動を近隣の方に知っていただくようにしていく
C. 事業所と地域のかかわり	・自治会の活動参加を今年度も行っていく。 ・地域の感染状況を確認しながらボランティア活動の受け入れを進めていく	・利用者同行で催しに参加できた ・自治会の会員の方の利用もあるため地域交流の懸け橋が出来たと思う	地域での、行事に参加を重ね事業所の認知も浸透してきていると感じている。	・公園掃除、お祭り、餅つき等の行事に今年も利用者とともに参加していく

D. 地域に出向いて 本人の暮らしを支える取組み	・各利用者の所属する自治会の活動の把握に努める（各地域の掲示板から情報収集する） ・外出行事を計画し、町の様子などを実際に見ていただくようにする	・各自治会の情報から地域活動の話題を提供する事が出来た - 利用者それぞれが、活動に参加していた事の思い出など回想する事が出来ていた	利用者の自治会活動参加の協力を今後も続けてもらい、ふくふくと自治会の活動の両方に参加できる環境作りを目指してほしい	・所属自治会だけでなく、近隣自治会の様子を送迎時に情報収集をするように気にかけていく - また、行事への参加促しを行っていく
E. 運営推進会議を活かした取組み	・会議の開催予定を事前に文章で連絡をすることに加え年間予定をお知らせして参加しやすくする	・開催の年間計画表を先にお配りした - 次年度も行っていく予定です	自治会からは役員が交代での参加となります ご連絡お願いします 会議を通して介護保険サービスの理解を深めていきたい	・ふくふくの活動内容を自治会の方に知っていただくように会議を通して情報を発信する
F. 事業所の 防災・災害対策	・今までにない近隣住民の方の参加により、気がつかなかった貴重な意見をたくさんいただくことができた。今年度の防災対策に活かしていく ・BCPにおいて災害発生時における地域連携の必要性を考慮し非常災害時における協力体制の確認をする	・事業所の防災訓練時の避難経路の動線確保を意識することができた ・緊急事態発生時に近隣職員が事業所に来ることができるのか？また到着までにどれくらいの時間を要するのかを考慮して訓練を実施するように計画する ＝ふくふくだけの緊急事態と広域地域での災害になった時の職員の動きに違いがある事を把握する必要がある	・近隣住民としてどのように避難の協力ができるのか指示をいただけると動きやすい ・ベランダからの避難を実際に行う事は出来ないのか？ ・災害時にふくふくの持つ介護力や物資の提供を頼りにしている。避難の拠点の一つになってほしい。	・年2回の防災訓練やBCP策定など防災に対する備えを充実させていく ・BCPに沿った訓練の実施 - また防災備蓄品の補充と防災器具の扱い方などを職員に周知する機会を設ける ・訓練のための訓練にならないように日頃からの災害対策への意識を高めていく